

湘南東部地域の現状(まとめと論点)

基本的
事項

<入院患者推計>

- ・人口は年々減少、65歳以上の高齢者は年々増加、2015年比で2025年は1.1倍、2040年は1.31倍。75歳以上は2015年比で2025年は1.46倍、2040年は1.54倍。
- ・患者数は、2025年には2015年比1.21倍、2040年は1.35倍に増加。65歳以上、75歳以上の患者は増加、65歳未満の患者は減少。
- ・疾患別：循環器、呼吸器の増加率が高い。

<要介護者推計>

- ・65歳以上の要支援・要介護者数は、2025年には、2015年比1.36倍（2017年比1.27倍）の36,470人と推計

<病床の状況（病床機能報告より）>

- ・病床機能報告においては、平成28年度と比較して、高度急性期及び回復期と報告された病床数が微増しているが、病床機能別の傾向は大きな変動はない。
- ・病床利用率は、急性期・回復期は、病棟によりややばらつきがあり、慢性期は高い病棟が多い。

入院
基本料

<一般病床、7:1・10:1>

- ・自己完結率は79.5%、横須賀・三浦に10.8%流出。流出超過。
- ・一般入院基本料（7：1、10：1）のレセプト出現比は全国平均より低い。
(H26から同傾向)

<地域包括ケア病棟>

- ・自己完結率は90.7%。
- ・地域包括ケア病棟のレセプト出現比は全国平均より低い。

<回復期リハ病棟>

- ・自己完結率は71.1%、横須賀・三浦に11.7%流出。流出超過。
- ・回復期リハ病棟入院料のレセプト出現比は全国平均より低い。
(H26から同傾向)

<療養病床>

- ・自己完結率は79.1%、流入超過。
- ・療養病床基本料のレセプト出現比は全国平均より低い。

疾患別の
地域特性

<がん>

- ・2025年入院患者数は全体的に増加、最も実数が多いのは肺がん
- ・がん入院の自圏域での完結率は最も高い大腸がんで80.6%、最も低い乳がんで62.5%。流出超過。
- ・化学療法、放射線治療(入院・外来)の自圏域での完結率は56.2%~64.3%。
- ・いずれも横須賀・三浦地域への流出が多い
- ・レセプト出現比は項目によりばらつきがあり、一部手術等で全国平均を上回るものもある。

<急性心筋梗塞>

- ・入院の自圏域での完結率は79.5%。流出超過。
- ・レセプト出現比の各指標は全体的に全国平均を下回っている。(H26から同傾向)

<脳卒中>

- ・入院の自圏域での完結率は71.9~80.4%。
- ・レセプト出現比の各指標は全体的に全国平均を下回っている。(H26から同傾向)

<糖尿病>

- ・外来の自圏域での完結率は89.2%。
- ・レセプト出現比は、総合的な治療管理体制に係る出現比が高く、それ以外は全国平均をやや下回っている。

救急医療

<救急医療>

- ・85.4%の患者が二次救急を圏域内で完結。流出入は拮抗している。(横須賀・三浦に9%流出)
- ・2次救急、3次救急体制のレセプト出現比は高い。(H26から同傾向)

在宅医療
等

<在宅医療等>

- ・訪問診療について、76.5%の患者が圏域内で完結。
- ・全体として、訪問診療などの在宅医療に係る医療行為に係るレセプト出現比は高い。ケアマネジャーとの連携などの退院支援、リハビリなどに係る指標の出現比に、やや低いものがある。(H26から同傾向)

【課題・論点】

○地域における役割分担の進め方、医療機能の過不足について

- ・病床機能報告においては、急性期が多く、回復期が少ないとされているが、急性期・回復期の間での実際の連携の状況と役割分担はどうか。
- ・立地的な点も影響し、流出超過、特に、がんなどの各疾病で、横須賀・三浦地域への流出が多い。脳卒中や急性心筋梗塞等のレセプト出現比が低いという地域特性は引き続き見られるが、地域における支障は生じているか。

○医療機関と、在宅医療や介護資源との連携